

ふるさと再発見!

vol. 14

ほろほわかやま

FREE



巻頭
特集

お城の動物園

—親しまれておよそ100年—

散策

歴史・文化

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

根来寺と五百仏山
「かみなが姫」宮子伝説
紀州忍者の謎に迫る
「宮彫」に魅せられて

お城の動物園

— 親しまれておよそ100年 —

和歌山市の中心部にそびえる和歌山城の敷地内は、市営公園として各所の整備が始まってからもうすぐ一世紀。なかでも和歌山公園動物園は、気軽に立ち寄って色々な動物を見ることができ、地元では「お城の動物園」と呼ばれ親しまれている。



静寂の中に響く鳴き声

和歌山城は、尾張・水戸と並ぶ徳川御三家のひとつとして長い歴史を刻んできた。敷地内は緑あふれる公園として整備され、観光客や市民の憩いの場となっている。市街地にありながら街の喧騒を感じさせない空間に、時折り動物の鳴き声が聞えてくる。城内にある動物園の動物たちだ。年間の入園者数は、およそ5万人で、その大半が地元の人々である。動物園から見上げる天守閣には、年間およそ18万9千人の観光客が登閣するそうだ。現在は、哺乳類が13種31点と、鳥類が20種82点の合計33種類113点の動物が飼育・展示されている。
〔2014年9月末時点〕

全国的にもめづらしい存在

和歌山城の旧南の丸に位置する「和歌山公園動物園」は、お城の敷地内にある全国的にもめづらしい市営動物園だ。春には花見、秋には紅葉狩りなど和歌山城を訪れるついでに立ち寄り、遠足や家族連れで足を運んだり、地元では誰もが一度は訪れたことのある思い出のある場所だ。

無用の長物が憩いの場に

動物園があるのは姫路市立動物園（姫路城）と和歌山公園動物園（和歌山城）の2カ所だけとなった。かつ入園料が無料なのは和歌山公園動物園だけである。
廃藩置県により和歌山城は、明治33年（1900）に和歌山県に貸し下げられ、翌年



網越しにサルを眺める見物客 一大正後期～昭和初期頃一

には「和歌山公園」として一般公開された。また明治45年（1912）には、和歌山市が市営公園とするために県から払い下げを受けた。

その後、市は東京帝国農科大学（現在の東京大学農学部）の教授であった本多静六氏に公園の改良設計を依頼し、大正4年（1915）

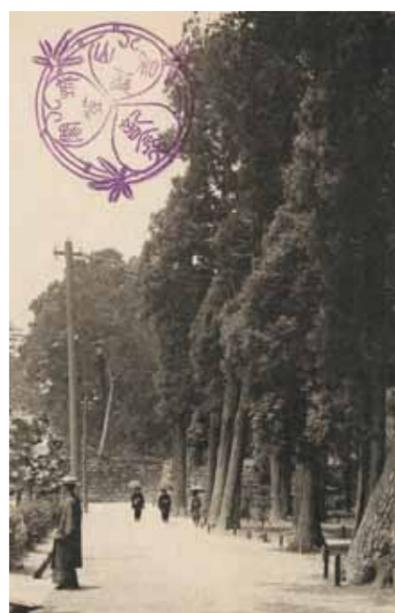
からの改修工事5ヵ年計画案が作成された。本多氏は日本初の林学博士で、日本における造林学・造園学の基礎を築くとともに、近代的な公園造

動物園の創立は大正時代

計画の第5年度目に計画されていたのが、旧南の丸への動物飼育場の開設と整備であった。これがやがて和歌山公園動物園として開設された。当時、園内には多くの樹木が植えられており、飼育舎

計画案の第5年度目に計画されていたのが、旧南の丸への動物飼育場の開設と整備であった。これがやがて和歌山公園動物園として開設された。当時、園内には多くの樹木が植えられており、飼育舎

には小鳥やサルなどが飼育されていた。周辺には子どもたちが遊ぶ遊具も備えられていたという。娯楽の少ない当時は、観光客や家族連れなど多くの見物客が訪れ賑わったであろう。
動物園を管理する和歌山城整備企画課によると、「5年にわたる公園整備のなかで動物園がいつ開園されたのか諸説あるが明確な記録が残っておらず定かではない」とのことだ。しかし、和歌山公園動物園は大正時代から長く市民に愛され続けている歴史ある動物園なのだ。



巨大な杉の木が連なる南の丸の杉林。紀州徳川家の初代頼宣が屋久島から取り寄せ植えたとされている。一大正後期～昭和初期頃一

かつて、お城と動物園の組み合わせは全国各地にみられた。しかし、近年では景観復元や環境整備が優先されたり入園者数が減少するなど、その多くが移転や閉園に追い込まれている。現在では、国内でお城の敷地内に



動物園を東から西に撮影された写真 一大正後期～昭和初期頃一

黒潮国体をまえに 華々しくリニューアル

動物園は、通路をはさんで東西2つのエリアに分かれている。主に哺乳類を飼育・展示する「童話園」（東側）と、主に水辺の鳥を飼育・展示する「水禽園」（西側）だ。

このような配置になったのは、黒潮国体の開催を翌年にひかえた昭和45年（1970）のことであった。前年の和歌山市制80周年を記念した公園全体整備の一環で動物園も大改造が行なわれ、まず第1期工事を終えた童話園が公開された。その約1カ月後には水禽園も工事を終え、5月5日の



ガルシーなどのほか、七面鳥やインコ、クジャクなど鳥

「こどもの日」に園内全域がリニューアルオープンを迎えた。開園式で風船飛ばしや鯉のぼりの掲揚など、楽しい趣向が凝らされ、地元の子どもたちにとって待ちに待った動物園の開園となった。

絵本のなかのような童話園 江戸時代になぞらえた水禽園

リニューアル直後の童話園ではその名にふさわしく、園舎の壁面を「ウサギとカメラ」や「サルカニ合戦」など収容する動物にちなんだ童話の壁画で彩り、子どもたちに親しまれるように工夫が凝らされた。

童話園にはアシカ・カン



くす玉を割ってお祝い

類も飼育されていた。なかでも8羽いたフンボルトペンギンが人気を集め、園舎の前は人だかりとなる。現在飼育されているのは、彼らの子孫である。

一方、水禽園は中央に大きな池を配して周囲に遊歩道をめぐらせた回遊式で、マガモなどの水鳥のほかにオオツルやカンムリヅルが飼育された。これは浅野氏が当主であった頃に城内の「鶴の溪」（旧砂の丸東側）で鶴が飼われていたことになぞらえたことである。開園当初は景観に配慮して、現在のようなネットの屋根はなかったが、餌の時

間になるとスズメやハトなど城内の鳥たちが集まるようになり、収容動物の餌が食べられてしまうため、やむを得ず屋根が取り付けられることとなった。

新たなアイドルあらわる

リニューアルから2年後の昭和47年（1972）、水禽園の南側に熊舎が完成する。アメリカクロクマの「メリカ」が登場し、一躍人気者となった。以来、ツキノワグマの「マック」、「ベニー」と引き続いて飼育されるクマがアイドル的存在だ。現在のベ



ニー（メス）は、平成6年（1994）から飼育されており、推定21歳。人間でいうと80歳を超えたおばあちゃんだ。毎年、冬になると冬眠し、ベニーの冬眠とお目覚めのニュースは動物園の風物詩となっている。

ら大きく変化し、現在の和歌山公園動物園は能動的である。小・中学生への体験学習や、市民ボランティア団体とともにイベントの開催などを行うことで、動物園を身近に感じてもらい活性化させる取り組みが行われている。

小学生による体験学習では、動物を観察して知ることで命の大切さや人間の役割を学んでいる。中学生による職場体験では、



飼育や清掃という体験を通じて、仕事への理解と動物愛護の精神を学習している。また、平成23年（2011）

からは市民や地元企業・団体から寄附金を募る「動物園サポーター制度」を開始された。動物園の支援をすることで、飼育されている動物たちにより親しみと愛着を持ってもらう制度だ。

誰もが気軽に入園できる動物園は地域の人々との深い繋がりがあった。集い学ぶことのできる開かれた場所で、子どもたちの気持ちを満たし続ける空間であり続けてほしい。

市民ボランティア団体 わかやまフレンズZOOボランティアガイド



「お城の動物園の良いところは、動物1頭1頭をじっくり観察できることです。」そう語るの、わかやまフレンズZOOガイドの事務局を務める後藤千晴さん。

この団体は、わかやまNPOセンターの直轄事業であった「お城の動物園応援隊」を前身としたボランティア団体です。動物ガイド15名のうち約半数が小学生から高校生までの若い世代で、イベントや動物ガイドを通して子どもたちに動物のことを伝え、動物園を盛り上げる活動をしています。イベントの中でも「市民ZOOフェスティバル」は楽しみにしているリピーターも多く、毎年たくさんの来園者でにぎわう一大イベントです。

後藤さんは「動物たちには、野生からわざわざ来てもらっています。動物園が単なる娯楽施設では失礼だし、もったいない。私たちは動物たちから多くのことを学んでいかなければなりません。」と語ります。動物たちに寄せる想いは、確実に次の世代に引き継がれています。



わかやまフレンズZOOガイド
✉ メールアドレス
wakayama.friend.zoo@gmail.com

【動物園サポーター募集中】

和歌山公園動物園では、「動物園サポーター制度」を設けています。

集まった寄附金は、動物の餌代や施設の修繕等の経費として活用されています。

◆お申し込み方法は、動物園サポーター申込書に必要事項を記入の上、寄附金をそえて動物園事務所へ直接お申し込みください。和歌山公園動物園事務所（童話園北側出口）9:00～17:00

◆寄附金額・個人の方は、一口300円。団体の方は、一口10,000円。※一口以上の寄附で登録となります。登録期間：1年間（登録した日の属する月の翌月から1年間）

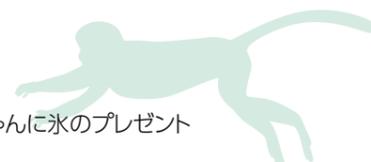
サポーター特典：個人…サポーター限定イベントへの招待や、動物の缶バッジのプレゼント。
団体…園内でのネームプレート掲示と天守閣への優待入場券（1枚）の贈呈。

和歌山公園動物園

場 所：和歌山市一番丁和歌山城内
開園時間：9:00～17:00
定 休 日：年中無休
入 園 料：無料
駐 車 場：有料Pあり（動物園西側）

「お城の動物園 歳時記」

- 春 羊の毛刈り
 - 夏 ベニーちゃんに氷のプレゼント
 - 秋 市民ZOOフェスティバル。動物園DE竹燈夜（10月）
 - 冬 ベニーちゃんの冬眠。1月中旬～3月中旬から下旬まで。
- ◆ミニチュアホースのお散歩。気候のよい時期のみ。14:00～2の丸広場まで運がよければ会えるかも？



自然の美しさと歴史を感じられる

根来寺と五百仏山

和歌山が誇る寺社の一つとして、高野山に並び立つ根来寺。その歴史は覺鑿上人（興教大師）を始めとした様々な人々と共にある。教えを説き、真言宗三大学山の一つとして栄えたが、強大な権力を恐れた秀吉の根来攻めにより寺院の大半が消失。現在の建物の多くは江戸時代に復興された。歴史の息吹を感じられる根来寺を五百仏山とともに歩く。

まず、岩出市民俗資料館を出発。第一目的の地は不動堂。大きな白提灯が訪れる人を出迎えてくれる。提灯をくぐり、階段を上ると立派な不動堂の建物が見えてくる。近づくと線香の香りがただよい、神妙な心持ちにさせられる。不動堂を抜けると、道を隔てた向こう側に五百仏山ハイキングコースがある。四国八十八カ所霊場を模し、八十八の祠がある。

で、少し一休みする。

道なりに進むとすぐに一番目の祠が見えてくる。祠には一つ一つ寺と仏像の名前が彫られている。二番目を過ぎると、すぐに急な登山道に入る。息を少し切らせて辿り着いた先は五十八番の祠だ。ここからはなだらかな山道が続く。六十五番の祠の手前にある東屋

再び散策を開始して、南大門跡を目指す。山の中に入りながら開けた場所であつて、かつてここには立派な大門があつた。山の頂上付近に大門跡があり、大塔などを眼下に見渡せる場所なのだが木々が生い茂っているため見晴らしはさほど良くない。

元々経路へと引き返す。道中で出会う祠には大日如来や千手観音菩薩、本尊薬師如来と、こんなに沢山の菩薩がいるのかと感心させられる。そして楓、桜、竹林等々の木々。紅く色づく紅葉や桜の美しさは、その季節にしか味わえない感動であろう。そして、ようやく八十八番目の祠に到着する。その辺りはあじさい園となる。

山を下り、根来寺に向かう。最初に迎えてくれるのは大門である。仁王像を配した荘厳な門をくぐる。蓮華院、律乗院を横手に見ながら進む。門をくぐり、蓮池、聖天池を左手に、正面に見えるのが光明殿。光明殿を後にし、大師堂、国宝である大塔、大伝法堂を拝観する。日本最大の多宝塔で、明治32年に国宝に指定されている。さすがの大きさに圧倒され、近くの本ンチに腰掛け眺めていると、心が洗われるように感じられた。

その後、もみじ谷公園を抜け、民俗資料館に帰り散策は終了。季節の移り変わりを肌で感じられるような素晴らしい自然が持つ魅力と、古の力が感じられる一日だった。



⑨大塔
日本最大の木造大塔で、国宝に指定されている。秀吉の紀州征伐の際にできたと言われる弾痕のようなものが見られる。



①岩出市民俗資料館
平成元年に開館。岩出市の風土と暮らしの移り変わり、根来寺の歴史などにも触れることが出来る。



②不動堂
興教大師が暴徒に襲われた際に身代わりになって上人を守られた、不動尊を本尊として祀っている。県下には少ない八角円堂としても貴重。



④大門
左右に仁王像を配し、重厚で圧倒される大門である。



⑤蓮華院
塔頭寺院の一つ。修学中の僧侶の指導に当たる学頭職の上人の住坊だった。



⑥律乗院
こちらも塔頭寺院の一つである。蓮華院と同じ学頭職の上人の住坊のひとつ。



⑦光明真言殿 (光明殿)
興教大師の御尊像を安置しており、左右に歴代座主や信徒の位牌が祀られている。



⑧大師堂
空海上人像を御本尊として祀っている。天正の兵火を逃れた建造物の一つで重要文化財に指定されている。



⑩大伝法堂
大日如来が御本尊である。真言宗の最も大切な修法を伝える道場である。



「かみなが姫」宮子伝説

〜道成寺開創のものがたり〜

道成寺の「姫」伝説と言えば、まず思い浮かぶのは大蛇となって道成寺の僧・安珍を追い詰めた清姫の物語だろう。しかし、道成寺には創建にまつわるもうひとつの「姫」伝説があった。それは、美しい髪をもち、時の帝の妃となった「かみなが姫」宮子の物語。古代のおおらかな趣があふれるそのシンデレラストoryとは――。



「かみなが姫」の伝説は、道成寺に伝わる絵巻『宮子姫伝記』に記されている。絵巻をもとに、縁起や民話として伝承されてきたその物語は、「九海士の里」（現在の御坊市にあったとされる）に、ひとりの娘が生まれたところから始まる。

九海士の里に住む海人の夫婦・早鷹と渚には、40歳を過ぎて子どもができません。そこで、氏神の八幡宮に熱心にお祈りをしたところから

ろ、念願の女の子を授かりました。八幡宮のご加護で授かったので、「宮」と名付け、大切に育てましたが、なぜか髪の毛が1本も生えません。ある年、九海士の海に光るものが現れました。宮の母は命がけて海底へもぐると、そこには黄金色に輝く小さな観音様が。観音様を持ち帰り、毎日お祈りしていると、何と宮の髪が生えてきました。髪の毛はぐんぐん伸び、宮は「かみなが姫」と呼ばれる美少女に成長しました。



物語の時代は飛鳥時代から奈良時代への過渡期。豊かな黒髪が美人の条件とされるのは平安時代のイメージが強い

が、さらに古い時代を舞台とするこの物語でも、黒髪が美人の条件になっている。そして、その黒髪が当代随一の貴人の目にとまる。

比等が探し出したのは、かみなが姫・宮でした。その1本の髪の毛は、九海士の里から都まで鳥がくわえてきたものだったのです。不比等は宮を養女として迎え、名前を宮子と改めました。

ある日、当時の右大臣・藤原不比等は、鳥の巣から垂れ下がっている七尺余りの黒髪を見つけます。この美しい髪の主はいったい誰なのか、不



藤原不比等と海人との関係は、能楽「海人」でも描かれている。そこでも海人が「海底の光る玉」を命がけて取りに行く場面があり、海人と不比等、海底の光るものには何か共通のモチーフがあるのかもしれない。

海人と言えば、「源氏物語」須磨巻をはじめとして、古典

文学では身分の低い者の代表格として描かれることが多い。紀伊国の海人の娘が時の帝の妃にまで上り詰め、さらに次の帝を生んだとなれば、これほどのシンデレラストoryはないだろう。



道成寺の発掘調査の結果によると、8世紀には既に寺院があったことが確認されており、建立の背景にこのような物語があった可能性を否定することはできない。藤原不比等の娘・宮子が紀伊国の海人の娘だという証拠はないが、地元の名刹に伝わる古代のヒロインの物語には、どこか胸を熱くさせるものがある。



系図

宮子姫みなとフェスタ

御坊市と御坊市観光協会が主催。毎年11月の初旬に日高港で行われる。よさこい踊りや航空ショーなど。(問い合わせ) 御坊市商工振興課 電話：0738-23-5531



宮子姫の里・時代行列

宮子姫生誕の地と伝えられる(御坊市藤田町)吉田区を中心に設立された宮子姫顕彰会が主催。吉田区の祭りに合わせ毎年10月第4日曜日に行われる。宮子姫や藤原不比等・紀道成などに扮した人々が道成寺から吉田八幡神社までを練り歩く。(問い合わせ) 宮子姫顕彰会事務局 電話：0738-24-0077

紀州忍者の謎に迫る

「忍術伝書」「正忍記」とは

昨年5月、和歌山市寺町通りにある大宝山恵運寺で、紀州藩士・名取三十郎正澄の墓石が発見された。名取三十郎は、忍術伝書「正忍記」を記した人物。忍術伝書があったということは、紀州にも忍者がいたということか。知られざる紀州忍者の謎に迫る。

日本三大忍術伝書のひとつ

「忍者」と聞いて、まず思い浮かべるのはどのようなイメージだろうか。軽やかな身のこなしで変幻自在の術を操

り、時には手裏剣やまきびしを駆使して敵と戦う。そして忍びの者は、それぞれの忍者の里でその術を磨く。忍者の里として有名なのは、やはり伊賀や甲賀だろう。その伊賀や甲賀の忍術をまとめた忍術伝書がある。延宝4年(1676)に記された「万川集海」である。また、伊賀・甲賀ゆかりの忍術伝書としては、ほかに「忍秘伝」という書も伝わっている。

それら「忍者の本場」の忍術伝書とともに、日本三大忍術伝書とされているのが、名取三十郎の記した「正忍記」だ。延宝9年(1681)に書かれたもので、全3巻、計102丁からなる。多くの研究書が出されているほか、英語やドイツ語、フランス語に翻訳もされている。



大宝山恵運寺

名取三十郎のルーツ

名取三十郎は、甲州武田家に仕えた祖父を流祖とする軍学流派「名取流」の中興の祖で、紀州藩主・徳川頼宣の軍学指南役として仕えた。墓石が見つかった大宝山恵運寺も、武田家の伝説的軍師・山本勘助ゆかりの寺だ。

名取三十郎は、甲州武田家に仕えた祖父を流祖とする軍学流派「名取流」の中興の祖で、紀州藩主・徳川頼宣の軍学指南役として仕えた。墓石が見つかった大宝山恵運寺も、武田家の伝説的軍師・山本勘助ゆかりの寺だ。



発見された墓石

紀州忍者の「忍術」

「正忍記を読む会」副会長

実際の注意点などが説かれている。まだまだ謎の多い紀州忍者だが、この忍術伝書を読み解くことで、思もよらない新たな忍者の姿を発見することができるともいえない。

の福田光男さんによると、本来の忍者の姿は、諜報活動や奇襲、策謀を練ることなどに長けた戦うグループだったそう。太平の世であっても、各地で有益な情報を収集する忍者は藩にとって必要な存在だったのだろう。

葉を話し、町を歩いていても怪しまれないよう工夫する」とある。非常に現実的な諜報活動の指南だ。また、「正忍記」には、紀州忍者の具体的な術についても記されている。「高所に忍び込むために鉤縄を使う」のはよくある忍者の姿だが、「蛙の卵を焼いたものを投げ敵から逃げる」という忍術にはオリジナリティがあふれている。



講演会での実演

「正忍記」ではこのほか、忍者の起源や心構え、グループでの行動や敵地に忍び込む



子どもたちも紀州忍者に親しんで

「正忍記を読む会」副会長 福田 光男

「正忍記を読む会」は、今年3月に発足した会で、楽しみながら紀州忍者に親しむことを目的に活動しています。きっかけは、昨年5月に行われた名取三十郎の墓の法要。ここで参加者から「『正忍記』をもっと読みたい」という声があがり、会を立ち上げることとなりました。

「正忍記」は日本三大忍術伝書のひとつとされていますが、しっかりとした序が付いており、私には3つの中でも特に格式の高い忍術伝書であるように感じられます。この内容を読み解くことで、紀州忍者の姿をより正確にイメージできるようになると思います。

また、名取三十郎の名取流は、明治維新の兵制改革で途絶えるまで藩で受け継がれたものようですが、謎が多い流派です。八代將軍吉宗の隠密「御庭番」と「正忍記」の関係も気になるようです。

紀州忍者をめぐるのは、このほかにも知りたいこと、興味の対象がたくさんあります。県内、県外の多くの人に紀州忍者に親しんでもらいたいと思っていますが、特に子どもたちには地元の忍者の存在を知ってもらいたいですね。そうしているような想像をふくらませてほしいと思います。

郵便はがき

640-8790

和歌山市市小路153-1
紀の川ビル2F

株式会社 ウイング
「ほうわかやまクイズ & プレゼント」係



ふりがな				
お名前				
年齢	歳	性別	<input type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女	ご職業
ご住所	〒			
電話番号				
クイズの答え	1 ・ 2 ・ 3			※あてはまるものを1つお選びください。
本誌の入手場所				

※応募くださいました個人情報は、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

正忍記の目次

- 序
- 当流正忍記
- 忍兵の品
- 正忍記一流の次第
- 當流正忍記伝法
- (正忍記 初巻)
- 忍び出立との習い
- しらぬ山路の習い
- 夜道の事
- 禁宿取り入る習い
- 狐狼の習い
- 牛馬のつたえの事
- 宮寺計間の習い
- 変化の論
- 陣中忍ぶ時の習い
- 水鳥の教え
- 忍び入る時分の事
- 四足の習い
- 二人忍びの事
- 三人忍びの事



「正忍記」に関する本



正忍記を読む会



名取三十郎の命日法要



「正忍記」

細かく美しい宮大工の技巧 「宮彫」に魅せられて

by RIKKA (編集部)

高野山は来年の平成27年(2015)に開創1200年を迎えます。私が仕事で通い始めた十数年前は、高野山のことを全く知らず、本やガイドブックを読んだり、お客様にいろいろと教えて頂いたり…。

パンフレットやチラシ、本づくりなど様々な仕事をするなかで、それまで写真でしか見たことのなかった仏画や仏像の実物を見るのが楽しみになっていきました。霊宝館には、国宝や重要文化財など約5万点が収蔵され、年に数回の展示替えがあるので、まだまだ新しい出会いがありそうです。

最近、あるパンフレットの制作時に担当者さんのお話を聞くうちに、柱や欄間などに施されている「宮彫」に興味を持つようになりまして。お堂の軒下などに目を凝らすと、植物や生物をはじめとして龍や獅子などの霊獣に至るまで、宮大工さんの手仕事による面白い彫刻が発見できるのです。

開創1200年にあわせて1772年ぶりに再建中の「中門」には、現代の宮大工さんたちによる匠の技が結集されているので、今からお披露目が楽しみです。

長いあいだ守り継がれてきた歴史・文化の一端を、これからもたくさんの方に感じてもらえる様な仕事をしていきたいです。



編集後記

こんにちは、ほうぼわかやま 14号はいかがでしたでしょうか？
実は、弊誌の発行元(株)ウイングの代表者が夏に交代し、今回が初めての発行でした。私もちょっとドキドキでしたが、外部協力者の岡記生さん、社員のみなさん、そして、取材先のご協力のおかげで無事発行できましたことに感謝いたします。奥付の発行人の名前は変わりましたが、さらに愛される誌面づくりに努力して参ります。

さて、前号でご紹介した南紀熊野ジオパーク構想ですが、その後「日本ジオパーク」の認定を受け、次は「世界ジオパーク」認定を目指します。和歌山の地質遺産が世界に認められる日も近い？ うれしいですね。

今回の特集「お城の動物園」は愛されておよそ1世紀、紀州忍者の存在は300年前、宮子姫伝説は1300年前、ジオパークに至っては数千万年前…。わかやまの歴史は奥が深いです。これからも、郷土の歴史・文化のステキな話題を発掘していきますので、楽しみにしてくださいね。(^^*)
第14号編集長 岡 京子



株式会社ウイング/印刷物の企画・デザイン・製造を専門とする会社で、「ほうぼわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。自費出版のご相談はウイングまで！
[沿革] 創業 1972年。設立 1981年。

「ほうぼわかやま」発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

ほうぼわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからもダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp> **ウイング 和歌山** 検索

お問い合わせ先 ☎0120-136-700

協力機関・協力者

本誌を作成するにあたり、次の皆様・機関・団体にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

和歌山城整備企画課 わかやまフレンZOOガイド 溝端佳則
根来寺 道成寺 御坊市観光協会 恵運寺 正忍記を読む会

クイズとアンケートで 当たる!

クイズにお答え頂いた方の中から抽選で
「高野山グッズセット」を 合計10名様にプレゼント!!

問題

和歌山公園動物園のアイドル熊の名前は何でしょう?

ヒント
本号のどこかに
答えが載っています

①よしむね

②ベニー

③あおい

Vol.13の答えは「②南海道」でした。

応募方法

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函(切手は不要です)もしくはメールにてご応募ください。 houbou@w-i-n-g.jp

1次
メ切

2015年2月末日
(当選人数:5名様)

2次
メ切

2015年3月末日
(当選人数:5名様)

本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。